

名前を呼ぶこと

年を取るにつれて、記憶力が低下します。それに加えて、学級や授業をもたない立場になったことで、生徒たちの名前と顔がなかなか一致しません。

生徒の名前が挙がると、常に顔写真の一覧を広げて確認するようにしています。しかし、それよりも効果的な覚え方は、きっかけをみつけて生徒に接することです。

毎朝私の前を通っていく一人の男子生徒。前傾姿勢になつて顔を下に向けながら坂を登っていきます。道路の向こう側から私が「おはよう！」と声をかけても反応がありません。私の声が聞こえないのかな。恥ずかしいのかな。それとも、小さな声であいさつを返してくれていて私に聞こえないだけかな。いろいろな可能性を考えていました。

あいさつは強制するものではありませんから、こちらから働きかけるだけにして、彼からあいさつが返ってくるのを待つことにしました。しかし、彼からは一向にあいさつが返ってきません。私からの「おはよう！」の一方通行状態がしばらくつづきました。

ある日、自転車通学をしている友人と一緒に、彼が登校してきました。その日は登校途中に合流したようです。私はいつものようにあいさつをしました。すると、友人の生徒が「おはようございます」と返すと同時に、彼がぺこっと頭を下げたのです。

私は確信しました。「彼はあいさつができない子ではない。『聞こえないのかな』『恥ずかしいのかな』と詮索するよりも、何とかして彼があいさつするようになる方法はないものかと考えるようになりました。

私はある方法を思いつきました。それは、「おはよう」の前に、彼の名前をつけることです。今朝もその方法を実践しました。いつものように下を向いて歩いてきた彼に、道を挟んだ反対側から大きめの声で声をかけました。

「○○君！おはよう！」

それまでうつむいていた彼は、はっとして顔を上げました。そして私の方に顔を向け、こくりと頭を下げました。声は返ってきませんでしたが、「あいさつに応えよう」という彼の気もちは十分届きました。私にとつて、大きな感動でした。今回書いた一連のできごとがきっかけとなり、彼の名前をしっかりと覚えることができました。

「名前を呼ぶ」たったそれだけのことですが、大きな力をもっています。生徒会活動においても、あいさつ運動するとき「名前を呼ぶ」という方法を取り入れてはどうでしょうか。

(十一月二十六日 記)